

芸術科（音楽）における「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法リーフレット

このように感じていませんか？・・・



評価材料をたくさん集めるために、提出物を増やしたりしないといけないのかな。

「創作」分野って、どのように授業を計画したらいいのだろう。

芸術科（音楽）での主体性を観察で評価するときには、どうしても主観が入ってしまうなあ。

何か新しいことを始めないといけないのかな。



そんな悩みにお応えするリーフレットです！ 教科に限らず、校内の皆さんでぜひご覧ください！



- 府立学校 実践事例① 音楽Ⅰ「カホンでのリズム創作」 【p.2～4】
- 府立学校 実践事例② 音楽Ⅱ「ハナミズキの歌唱」 【p.5～7】
- まとめ 【p.8～9】
- 参考資料（ICT活用アプリ紹介など） 【p.10～14】

府立高校の実践事例 ①「カホンでのリズム創作」



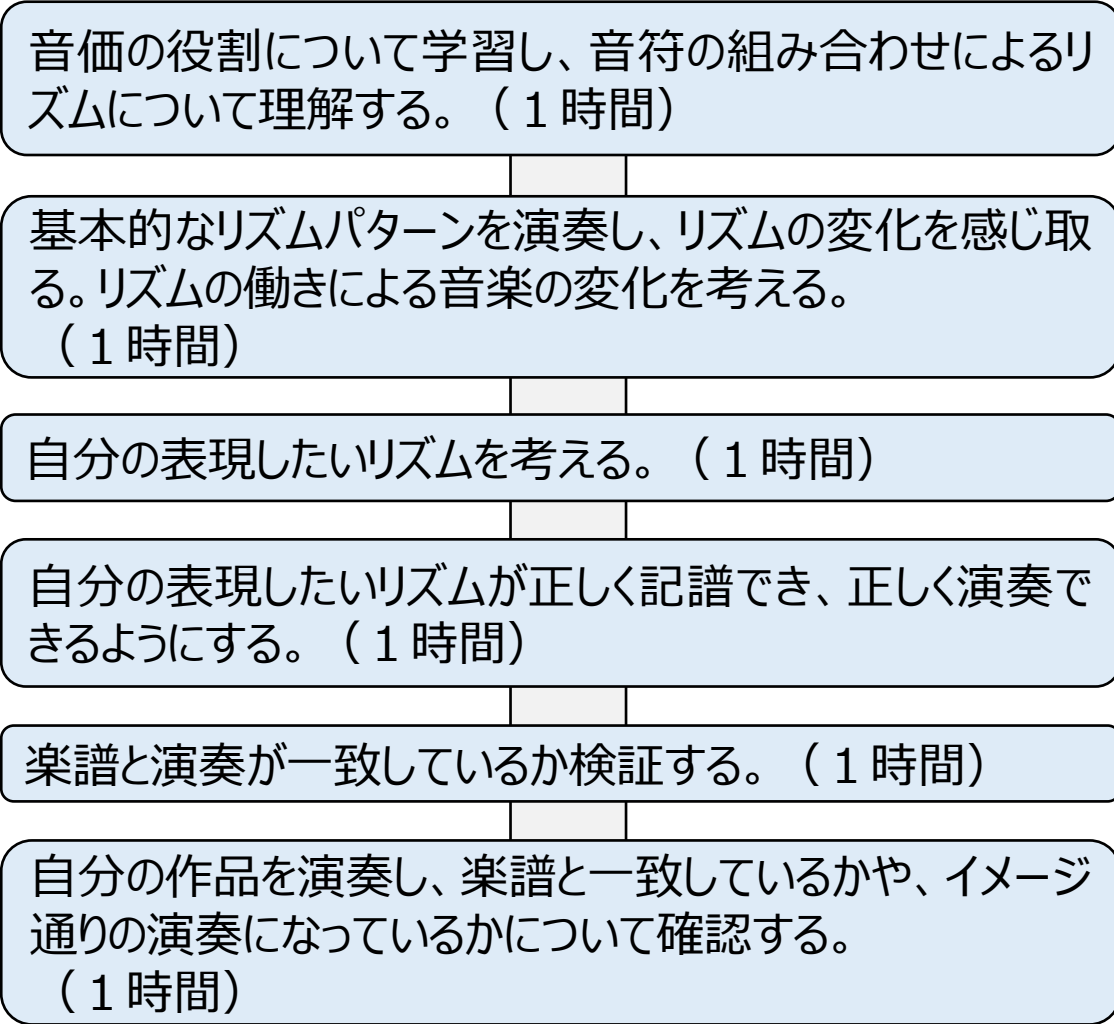
目標

知識、技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
<ul style="list-style-type: none"> 音価の役割を理解する。 創意工夫を生かした創作表現をするために必要な音符の組み合わせを変化させ、カホンで演奏する技能を身に付け、創作で表す。 カホンの音の高低とリズムとの関わりについて理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 音価の組み合わせによるリズムを知覚し、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 音価の組み合わせによるリズムに関心を持ち、主体的・協働的に創作に取り組もうとする。

評価規準(実現したい生徒の姿)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 正しい音符の組み合わせで楽譜を書くことができる。 カホンの音の高低とリズムとの関わりについて理解し、楽譜通りに演奏することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的なリズムパターンを参考に、自分で音の高低の組み合わせを考え、自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> 音価の組み合わせによる、リズムの創作について、積極的に取り組み、リズムの組み合わせを工夫しようとしている。 自分の考えたリズムについて、正しく書こうとしたり演奏しようとしていたりしている。

題材の流れ



詳しい単元計画はp.10

「主体的に学習に取り組む態度」の総括的評価

(1) 評価場面：実技テスト・楽譜作成

詳細：

・トランベルカホンや楽譜作成ソフト（Flat）を使って、自分で試行錯誤しながらリズムを創作して楽譜を作成する。

・実技テストでは、作成者としての意図を説明し、楽譜を見ながら1人で演奏する。

* 教員は、生徒の説明を聞き、生徒が提出した楽譜を見ながら演奏を聴き、楽譜と演奏が一致し、意図が反映されているかを聴き取る。

(2) 判断基準

「十分満足できる」状況(A)	「概ね満足できる」状況(B)	「努力を要する」状況(C)と判断された生徒に対する支援のてだて
<ul style="list-style-type: none"> ・ 独自のリズムで創作楽譜を作成しようとしている。 ・ 楽譜と演奏の一致をめざしており、リズムに表現意図が感じられ、工夫しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的なリズムパターンをもとに、創作楽譜を作成しようとしている。 ・ 楽譜と演奏の一致をめざしており、楽譜も正しく書こうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 動画を見て、基本的なリズムパターンを習得できるようにする。 ・ 楽譜作成ソフト（Flat）を使用し、自分の楽譜を打ち込み、検証できるようにする。

楽譜作成ソフト（Flatなど）を使用することで、創作した楽譜の音価やリズムが正しいものであるかを生徒自身で確かめられる。

(3) 支援を必要とする生徒の例と具体的な支援内容

・ 楽譜は書けているが、演奏ができない生徒
→ 楽譜作成ソフト（Flat）で入力したものを繰り返し再生して練習させる。

・ どんなリズムを使っていいかわからない生徒
→ リズムパターン例から組み合わせて作成させる。

・ 音符の長さが理解できず、まったく楽譜が書けないという生徒
→ 教科書やプリントを見ながら、音符の計算を確認する。

リズムパターン例

創作課題

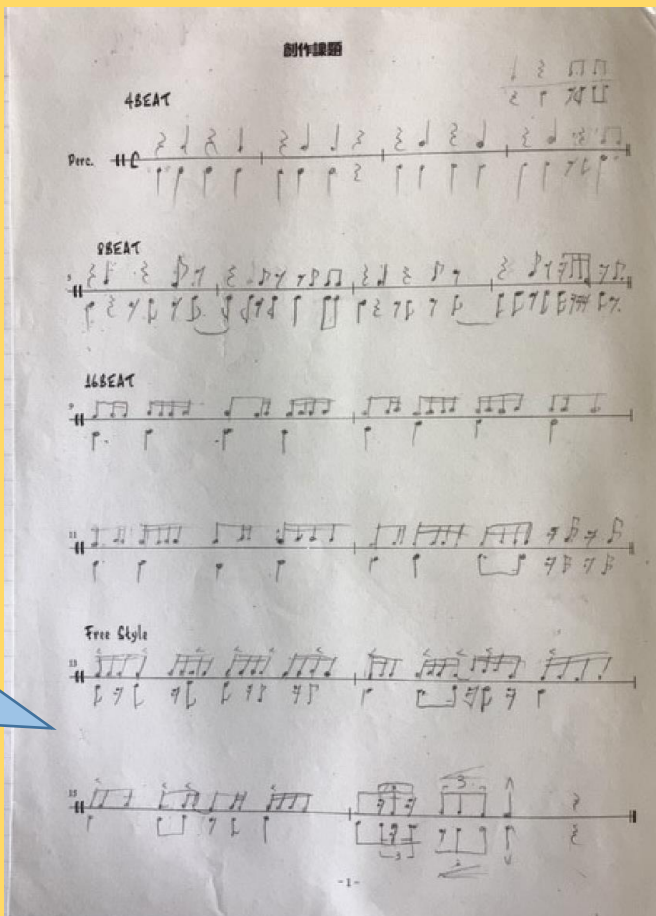
リズムパターン例を参考に、創作課題に取り組む。

生徒への配付資料

(4) 評価例

評価：A

最後の2段で、特に躍動感が読み取れる。

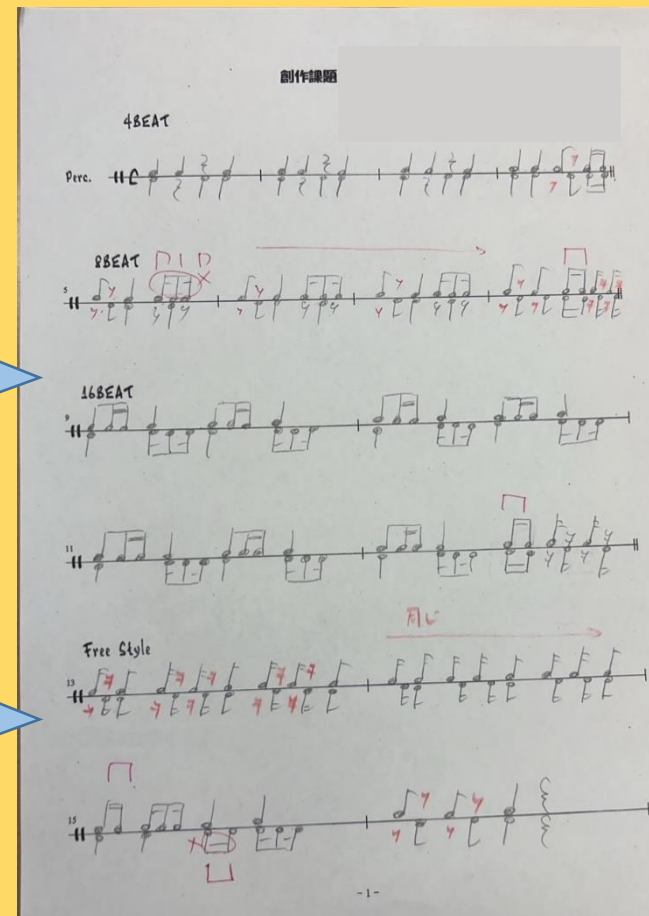


提示したリズムパターンだけではなく、自分で創作した躍動感のあるリズムがあり、演奏についても拍子が明確で、ただ叩きだけになってしまう生徒が多い中、楽器としての音色が感じられたので、Aとした。

評価：B

前半は、基本パターンをもとにしている。

後半は、独自のリズムを創作している。



基本的なリズムパターンをもとに、自分でリズムを創作している。また、概ね楽譜通りに演奏できていたので、Bとした。



目標

知識、技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造、歌詞や背景について理解するとともに、創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な技能を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形づくっている要素を知覚し、楽曲の表現について考え、個性豊かに歌唱表現を創意工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ全体で完成に向け、主体的・協働的に話し合いや合わせ練習を進める。

評価規準(実現したい生徒の姿)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・曲全体を通して正確な音程やリズムで歌うことができるとともに、ハーモニーを意識して歌う技能を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形づくっている要素を知覚し、楽曲の表現について考えている。 ・表現力（強弱、発音、表情、視線、姿勢等）を意識して歌唱表現することができる。 ・他者との調和を意識して歌唱表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いやアンサンブルを行う中で、意見を出したり、出た意見に対して反応したりし、より良い歌唱表現へと繋げようと主体的・協働的に取り組もうとしている。

題材の流れ

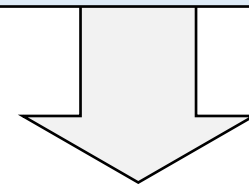
課題曲の全体像を理解する。（1時間）

楽曲の構造・背景について理解し、創意工夫を生かして《ハナミズキ》を歌う。（2時間）

自分の演奏を録画し、実践と検証を繰り返す。（1時間）

これまでの取組みを生かしてアカペラで発表する。（1時間）

これまでの取組みを生かしてアカペラを鑑賞する。（1時間）



詳しい単元計画はp.11

「主体的に学習に取り組む態度」の総括的評価

(1) 評価場面：楽曲の構造について理解したうえで、創意工夫を生かして《ハナミズキ》を歌う実技テストに向けての練習や話し合い。

詳細：

グループ内で楽曲に対するイメージや伝えたいメッセージを考え、シンキングツール（フィッシュボーン）を用いて、考えたイメージをどのように表現（発音・強弱・発声等）するのかについて考え、ワークシートへ入力する。また、演奏を録画し、実践と検証を繰り返す。

* 教員は、この活動において、活用したワークシート等も参考にしながら、次の様子を観察で見取る。

- ①グループ内で出た意見に反応するなど、課題解決をめざす姿が見られる
- ②グループ内に好ましい影響力を与えるなど、考えを深めるために貢献している
- ③グループ内でコミュニケーションをとり、意見を修正したり生み出したりしている
- ④録画から自分たちの演奏について疑問を持ち、新たな課題を設定しようとしている

評価のポイントを絞り、具体的に提示することで、生徒も何を頑張ればいいのか見通しを持てるようになり、主体的に取り組む姿が見られた。


(2) 判断基準

「十分満足できる」状況(A)	「概ね満足できる」状況(B)	「努力を要する」状況(C)と判断された生徒に対する支援のてだて
①～④のうち、4つを満たしている。	①～④のうち、①を含む2～3つを満たしている。	話し合いやアンサンブルに入っていける場面を、教員とのやり取りを通して設定する。

生徒に提示したスライド


ハナミズキの評価

ポイント



次のことを意識しよう！

- 音程
- ハーモニー
- 魅せ方（強弱・発音・表情・視線・姿勢）
- 他者との調和を意識して歌唱表現
- 暗譜
- 声量



教員として、この場面において、最も大切にしたいことが①なので、「①を含む」としている。

(3) 活動で使用したワークシート等

① この楽曲は…

2001年の同時多発テロ事件がきっかけで作られた曲

平和を願ってる歌

大切な人を思った曲

柔らかい曲

語りかけるような曲

聴いている人に…
～になって欲しい。～を伝えたい。

平和を伝えたい。

平和についてもっと考えてほしい

聞いてくれる人に大事なものの大切さを伝えたい

優しい気持ちになってほしい

感動してほしい。

ワークシートは全て共同作業とし、シートに各自考えたことを1枚1枚のカードに入力。グループ内で共有し、考えをまとめていく。

シンキングツールを使用することで、グループでの意見を視覚的にとらえることができ、共有することが容易となる。

②

この曲は…
平和を願う優しい雰囲気
のやさしい曲

聴いている人に…
変わることはない平和が
どうなるかを考えてほしい。

歌声

A×口: やわらかく

B×口: 語りかけるように

サビ: 力強く

強弱

A×口: mf

B×口: mp

サビ: f

大切にしたい言葉

君

船が沈んじゃう

好きな人

表情、その他

少し微笑んで

伝えたいことがいっぱいある感じの顔

③

*マークを書き込もう!
鼻濁音⇒○
子音⇒□
控えめに歌う助詞⇒()

*大切にしたい言葉に **ライン** を引こう!

*どのような表情で歌いたいですか?

この曲は

聴いている人に

～になって欲しい。～を伝えたい。

考えた内容を楽譜に書き込む。
記入した楽譜を見ながら、発表まで練習を進めていく。

複数回、撮影して、授業の最後に1番良かった動画を提出。
なぜ1番良かったと感じたのか理由について書いたり、次回に向けての改善点等を入力したりする。

④

メンバーのうち誰か1人の端末で撮影しよう

撮影は、このカード上で左上の+ボタンからカメラを開く

動画1 (良い方)	動画2
動画貼る	動画貼る
良かった点 (なぜ動画1の方が良いと感じたのか、上手く表現できたところ等)	
1番どこを優しく、どこを少し強く歌うのかを考えながら歌うことができたから	ハモリはもともと良かったけど、強弱がなかったから強弱をつけた
最初のほうが声の強弱が落ちていたから。	グループで決めた、どう歌おうかを意識して歌っていたから。
改善点 (具体的に、ここをもっとこうすれば良かった等)	
鼻濁音や子音、ハモリや表情などをもう少し意識して歌うことが出来たら良かったと思いました	顔、体をたくさん動かして歌いたいと思う!!!
歌うところだけではなく顔の表情もつけられたらもっと良くなると思う。	鼻濁音を意識すること、ハモリのバランスを調整する。

(1) 生徒が思いや意図を考える機会の設定や「問い」の工夫

どう表現したかだけでなく、どう表現しようとしたかを評価するために、思いや意図を記載する場面を設定したり、「問い」の内容を考えたりしましょう。

【考えられる場面の例】

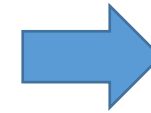
- ・歌唱の初めに、どのように歌いたいかの思いや意図を記述させる。
- ・創作の授業では、どのようなことを表現したいかについて記述させる。

【問いの例】

「なぜ f で演奏しようと考えたのですか？」

「〇〇（決められた条件）を使って旋律を作る場合、どのような音楽にしたいですか？」

「この音楽は、何の楽器で演奏されているか、またどのような音色に感じましたか？」



- ・思いや意図
- ・思いや意図の実現に向け努力しているか
- ・思いや意図が表現に反映されたかを評価できる！

(2) 生徒が単元の途中で改善すべきことに気づく場面を設定

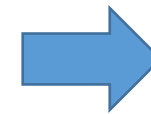
生徒どうしが意見交流などで協働的に学んだり、生徒が自身の「学習の振り返り」を次の学びにつなげたりすることができるような場面を設定しましょう。

【協働的に学ぶ場面の例】

- ・単元の途中で相互評価の場面を設定し、現時点での課題に気づかせる。
- ・ペアやグループでの演奏について相互に意見交換をし、それらを踏まえて修正する。

【振り返りの場面の例】

- ・授業の振り返りを行い、次の時間までにここまで仕上げようと計画を立てる。
- ・楽譜作成ソフトなどを使用し、正しい音価やリズムで楽譜を作成できているかなどを生徒自身が確かめる。

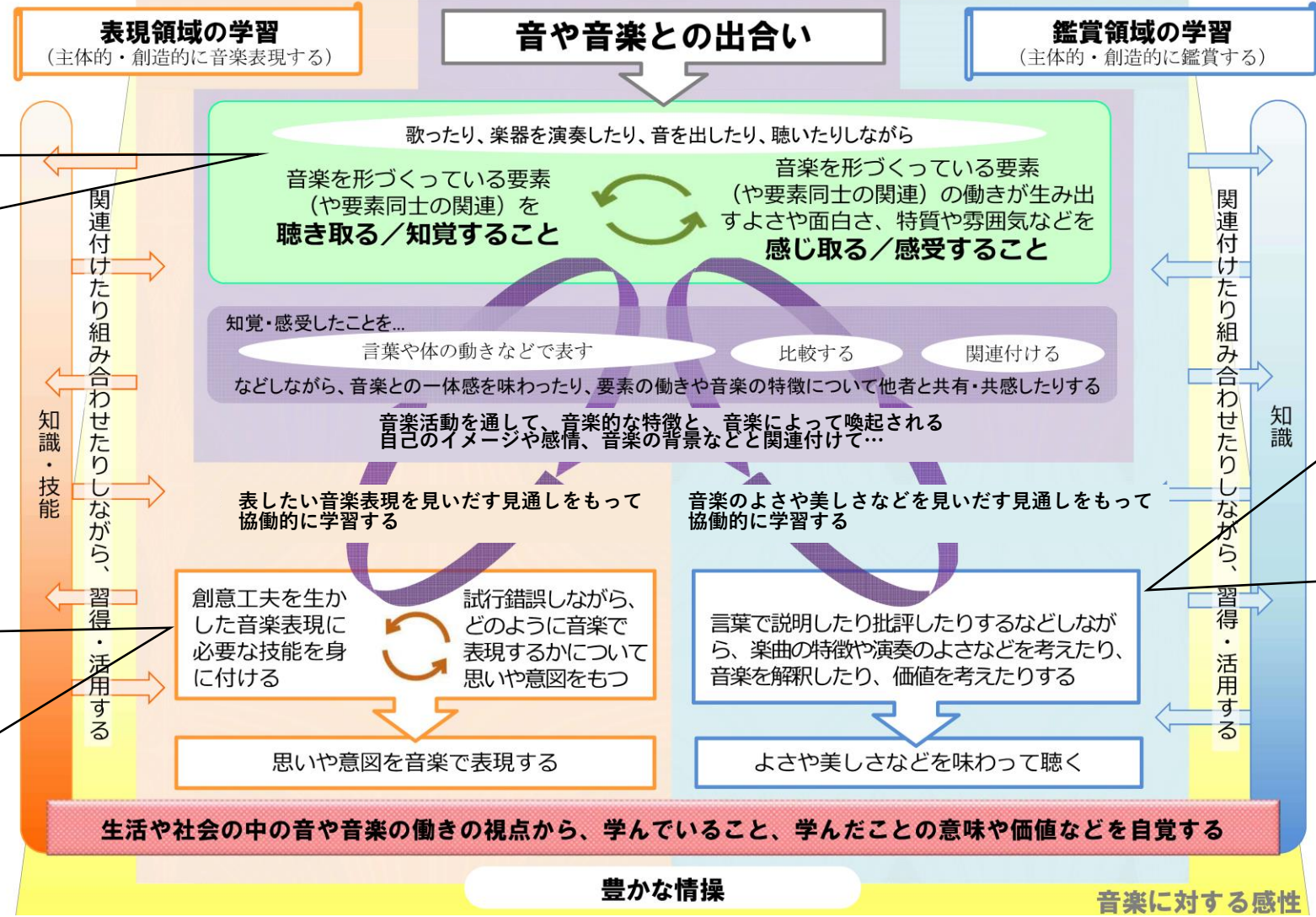


- ・改善点に気づいているか
- ・改善のためにどんなことを取り入れているか
- ・改善に向けて努力しているかを評価できる！

実際の音や音楽
と関わらせて学ぶ
ことが大切！

「知識・技能」と
「思考・判断・表現」は、**サイクル**
で習得！
「知識・技能」を習得
することで「思考・判断・表現」の能力が育まれる。
「思考・判断・表現」する
中で「知識・技能」の習得が必要になる。

授業の途中で**相互鑑賞**や**相互評価**を取り入れ、
お互いにアドバイスを
出し合いながら協働的に
作り上げていくことが
効果的！



参考：中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」（平成 28 年 12 月）



評価材料をたくさん集めたり、提出物を増やしたりしないといけないのかな。

「創作」分野って、どのように授業を計画したらいいのだろう。

何か新しいことを始めないといけないのかな。

芸術科（音楽）での主体性を観察で評価するときには、どうしても主観が入ってしまうなあ。

題材における指導と評価の重点を決めることで、**パフォーマンス課題（実技テスト）**や**そこに至るまでの行動観察**を通して「主体的に学習に取り組む態度」の評価を行うことができる。

実践事例①を参考に計画してください。

これまでも芸術科（音楽）では、「主体的に学習に取り組む態度」を見取るためのパフォーマンス課題（実技テスト）を取り入れていたと思います。必ずしも新しいことを始める必要はありません。

具体的な評価規準を定めることで、行動観察でも客観性や公平性、信頼性を確保することができます。

参考資料

- (1) 実践事例①「カホンでのリズム創作」の単元計画
- (2) 実践事例②「ハナミズキの歌唱」の単元計画
- (3) 芸術科（音楽）の授業で使えるコンテンツ
- (4) 文部科学省や府教育庁等が作成した資料



参考資料(1) 府立高校の実践事例 ①「カホンでのリズム創作」 題材の指導と評価の計画

●…形成的評価（指導に生かす評価）、○…総括的評価（記録に残す評価）

時	学習内容 [何を学ぶか]	学習活動 [どのように学ぶか]	評価の 観点			評価規準【観点】（評価方 法等） [何ができるようになるか]
			知	思	主	
1	音価の役割について学習し、音符の組み合わせによるリズムについて理解する。	・プリントにより視覚的に音の長さを学習する。 ・補助的にリズム学習ソフトなどを使用し、音符の計算をしたりして音符に慣れる。	●			音価の役割を把握し、音符の組み合わせによってできるリズムを正しく読むことができる。【知】 簡単な音符の計算ができる。【知】 簡単なリズムの楽譜をすぐに演奏できる。【知】
2	基本的なリズムパターンを演奏し、リズムの変化を感じ取る。リズムの働きによる音楽の変化を考える。	・リズムを唱えやすい言葉に置き換えるなどして把握しやすくする。 ・繰り返し練習する。		●		イメージを持って、楽譜通りにカホンで叩くことができるように練習をしている。【思】
3	自分の表現したいリズムを考える。	・リズムパターンや教科書の楽譜を参考に、いろいろなリズムを演奏しながら、演奏できるリズムを考える。				教科書やプリントのリズムを参考に、自分なりのリズムを考え、記譜ができている。【思】

時	学習内容 [何を学ぶか]	学習活動 [どのように学ぶか]	評価の 観点			評価規準【観点】（評価方 法等） [何ができるようになるか]
			知	思	主	
4	自分の表現したいリズムが正しく記譜でき、正しく演奏できるようにする。	各自で作った作品を演奏し合ったり、聴き合ったりして、意見交換やアドバイスを踏まえて修正したり、さらに工夫を加えたりする。		●	○	客観的に自分の作品を検証し、具体的に不具合を見つけ、修正ができている。【主】 さらにアイデアを深めて、より表現を工夫している。【思】
5	楽譜と演奏が一致しているか検証する。	Chromebookを使用し、録画をして振り返り、自分の演奏を客観的に検証する。 教員によるアドバイスを受ける。				客観的に自分の作品を検証し、より確実な演奏にしようとして主体的に取り組んでいる。【主】 楽譜作成や演奏における改善案を考えている。【思】
6	自分の作品を演奏し、楽譜との一致しているかや、イメージ通りの演奏になっているかについて確認する。	実技テストによる演奏発表。その場で楽譜との不一致の点があれば、指摘し訂正を行う。	○	○		楽譜通りに演奏することができている。【知】 自分の作品が、イメージ通りに演奏できる、またはできなくてもイメージを持ちその完成形に近づけられている。【思】 自分の考えたリズムについて正しく演奏しようとしている。【主】



は、1時間のみで評価するのではなく、継続していることを表しています。

参考資料(2) 府立高校の実践事例 ②「ハナミズキの歌唱」 題材の指導と評価の計画

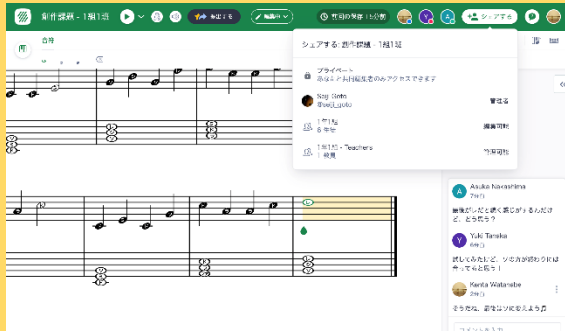
●…形式的評価（指導に生かす評価）、○…総括的評価（記録に残す評価）

時	学習内容 [何を学ぶか]	学習活動 [どのように学ぶか]	評価の観点			評価規準【観点】（評価方法等） [何ができるようになるか]
			知	思	主	
1	課題曲の全体像を理解する。	・《ハナミズキ》を聴く。 ・実際に旋律やリズムを理解し歌う。 ・二声に分かれて二部合唱する。	●			創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方、また他者との調和を意識して歌う技能を身に付けている。【技】（観察）
2	楽曲の構造・背景について理解し、創意工夫を生かして《ハナミズキ》を歌う。	・グループでシンキングツールを用いて発音・強弱・発声等について考え、ワークシートへ記入する。	●	●		楽曲の構造や背景について理解している。【知】（観察） 発音や発声について考え、自己のイメージを持って表現している。【思】（ワークシート）
3	楽曲の構造について理解し、創意工夫を生かして《ハナミズキ》を歌う。	・グループでシンキングツールを用いて発音・強弱・発声等について考え、ワークシートへ記入する。			○	発音や発声について考え、個性豊かに歌唱表現を創意工夫している。【思】（ワークシート、観察） 歌唱表現に関心を持ち、グループ活動を通して主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。【主】（観察）

時	学習内容 [何を学ぶか]	学習活動 [どのように学ぶか]	評価の観点			評価規準【観点】（評価方法等） [何ができるようになるか]
			知	思	主	
4	自分の演奏を録画し、実践と検証を繰り返す。	・ロイロノートで録画し、実践と検証を繰り返す。 ・発表会の本番を想定したりハーサルを行う。		○	○	発音や発声について考え、自己のイメージを持って表現している。【思】（ワークシート、観察） 意図した表現によるアカペラの発表に向けて主体的・協働的に取り組もうとしている。【主】（観察）
5	これまでの取り組みを生かしてアカペラで発表する。	・ステージマナーに配慮して、アカペラで発表する。 ・目の前で展開される生の音楽の良さを味わいながら鑑賞し、感じ取ったことをワークシートへ記入し共有する。	○			創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な他者との調和を意識して歌う技能を身に付けている。【技】（演奏の聴取） 自己のイメージを持って、歌唱表現を創意工夫している。【思】（演奏の聴取） 主体的・協働的に歌唱及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。【主】（演奏の聴取）

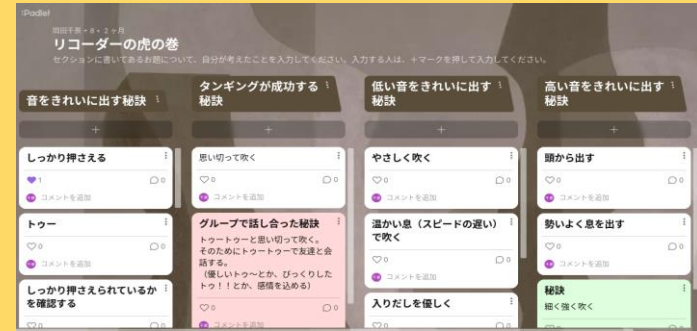
① Flat (Tutteo Limited)

楽譜作成ソフト。作成した楽譜の自動演奏だけでなく、PDF、mp3、MIDI形式へのエクスポートや作成した楽譜の印刷もできる。課題作成機能があり、クラスルームと連携して課題配信や採点ができる。インターネットブラウザで動作するため、アプリのインストールは不要。



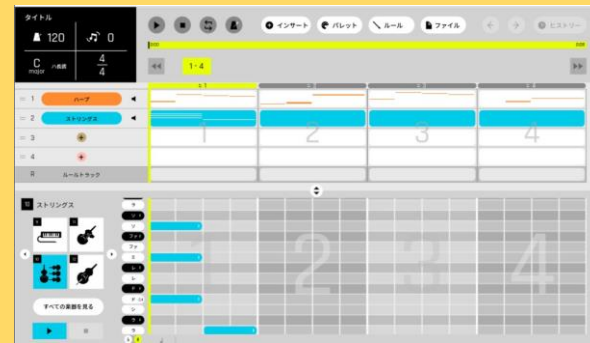
② Padlet (Wallwisher,inc.)

音源やPDFなどの資料、その場で録音・録画した写真・動画・音声など、さまざまなコンテンツを一画面で整理・提示・共有できる視覚的なボード。インターネットブラウザで動作するため、アプリのインストールは不要。



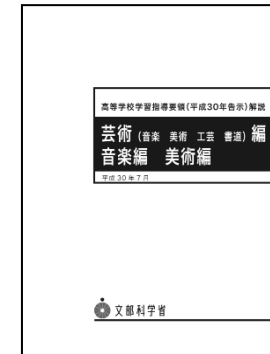
③ カトカトーン (教育芸術社)

音楽Webアプリ。初心者でも分かりやすく音楽作成ができる機能を備え、プログラミング的思考の育成にもつながる。また、作成した音楽をオーディオファイル・楽譜・MIDIファイルなどで書き出すことができる。インターネットブラウザで動作するため、アプリのインストールは不要。



- 【芸術編 音楽編 美術編】高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説
https://www.mext.go.jp/content/1407073_08_2.pdf

各科目の「目標」・「内容とその取扱い」が示されています。内容とその取扱いには、育成をめざす資質・能力に向けての活動例なども多く示されています。



- 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【高等学校 芸術（音楽）】
https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r030820_hig_ongaku.pdf

学習評価の基本的な考え方や題材の評価規準の作成のポイント、学習評価に関する事例などが示されています。



- 「観点別学習状況の評価」実施の手引き 各教科事例集
<https://www.osaka-c.ed.jp/category/forteacher/pdf/kanntenbetsu%20.pdf>

単元「ギター之二重奏で演奏しよう」における観点別学習状況の評価の進め方として、指導と評価の計画や具体的な評価方法（課題や判断基準）、ワークシートなどが示されています。

